

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月11日
枚方市立杉中学校

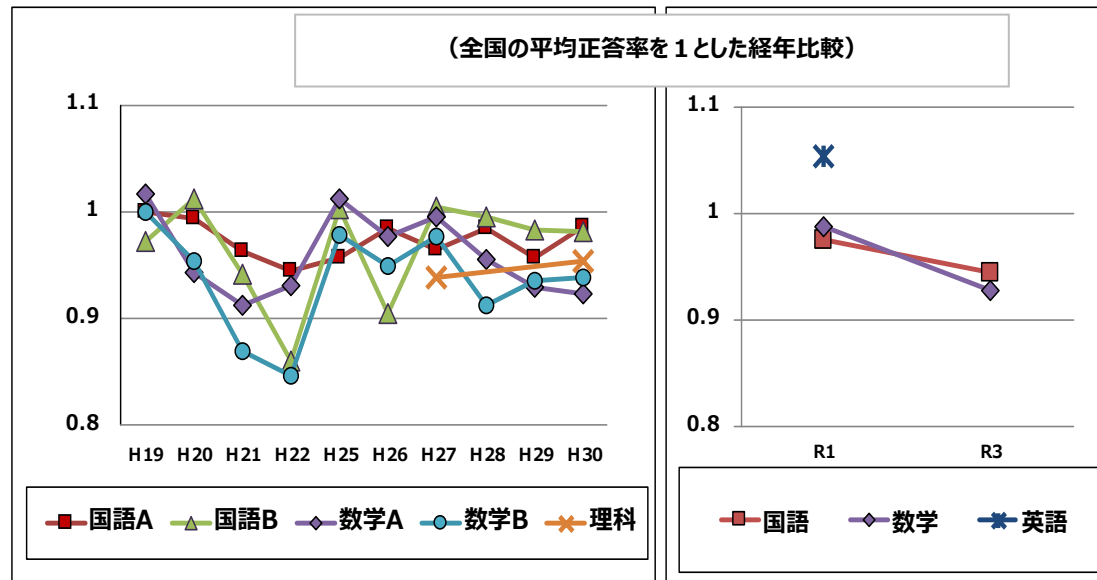
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)



<学力調査結果の概要>

○国語について

→「自分の考えを書く」問題では、全国比を下回ったものの、一定の成果が見られました。授業では、作文指導の充実、日々の振り返りを自分の言葉で書くことを続けてきた成果が出たと考えられます。一方、「読むこと」については課題が見られました。普段読書をしない生徒が6割を超えているなど、継続的な指導によって「読むこと」の価値について指導していく必要があります。

○数学について

→学習指導要領の領域である「関数」については一定の成果が見られる一方、「資料の活用」については課題が見られました。問題別では「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」については無回答率も高く、課題が見られました。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

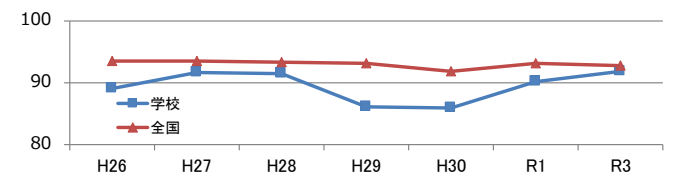
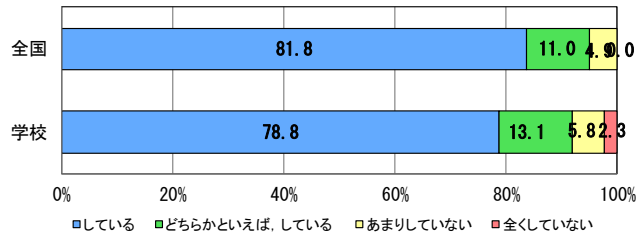
※英語の調査は、令和3年度は行われておりません。

質問紙調査の結果

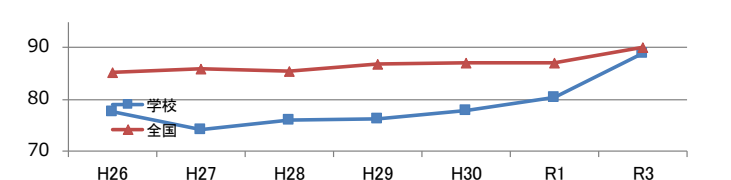
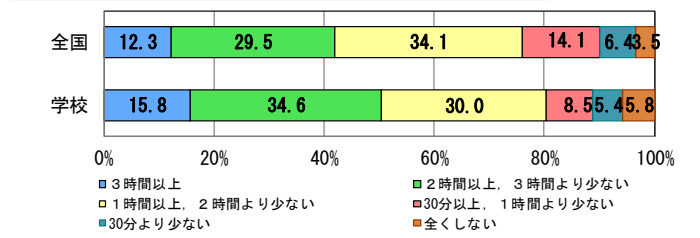
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

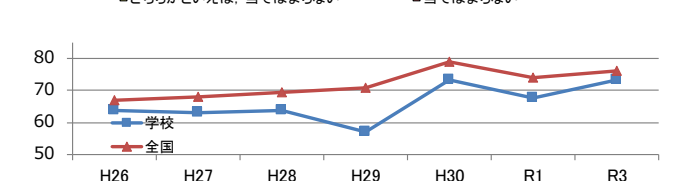
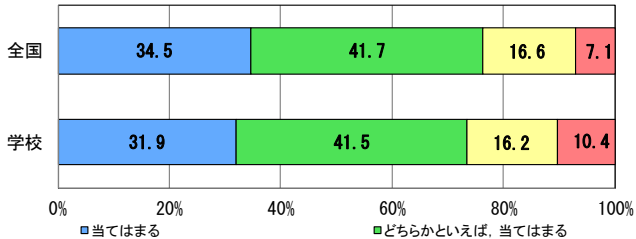
朝食を毎日食べている。



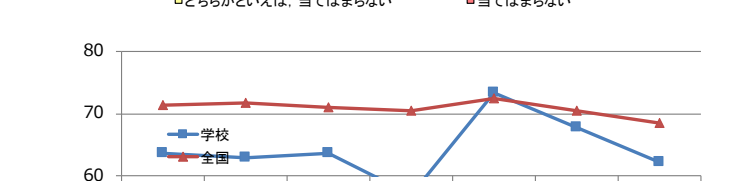
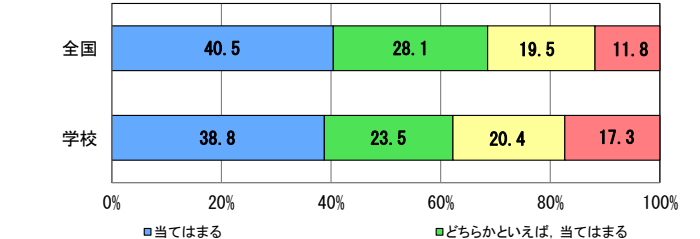
授業時間以外、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



自分には、よいところがあると思う。



将来の夢や目標を持っている



<質問紙調査結果の概要>

毎日朝食を食べている生徒は91.9%で全国を0.9ポイント下回ったものの、高い数値で推移しており、基本的な生活習慣は概ね確立していると考えられます。授業以外の学習時間は、「2~3時間以上」学習している生徒は全国比を上回っている一方で、「全くしない」生徒の割合も全国比を上回り、学習時間の個人差に課題が見られます。自分を価値のある存在だと感じる自尊感情は、令和元年度から上昇しているものの、全国比を下回っています。

まとめ

夢や目標を持ち、日々前向きに過ごしていくためには、基本的な生活習慣と小さな積み重ね、自分自身に自信を持つ必要があります。そのために、学校と家庭が今後も連携を深めていく必要があります。授業の充実だけでなく、自ら学ぶ意欲を高め、家庭学習を充実させることで学力の定着・向上につなげていきます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

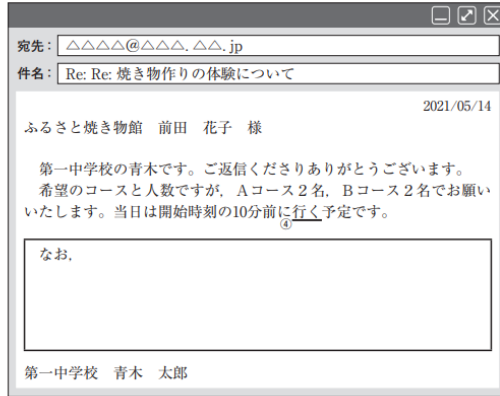
成果や課題があった設問

相手や場に応じて敬語を適切に使う

【成果】

三 縦部①「行く」とありますが、「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類を次の1から3までの中から一つ選びなさい。

3 丁寧語
2 謙語
1 尊語



青木さんが送信する「二回目のメールの下書き」

	正答率	無解答率
本校	44.1	2.4
全国	40.3	1.7

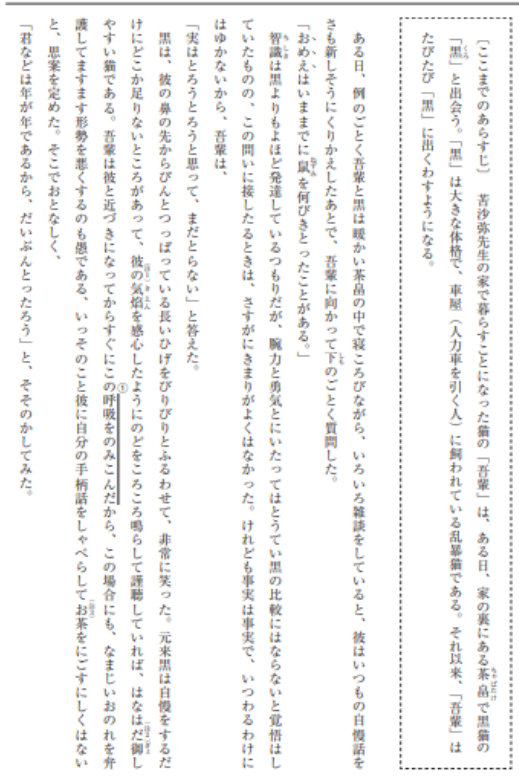
(考察)
「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する問題である。全国比で 3.8 ポイント上回り、文法の授業では、対話の中で実際に敬語を使い指導した成果を見とることができる。進路指導においても、敬語の指導を行い、社会生活との関連を図った学習活動によって成果が出たと考えることができる。

【課題】

文脈の中における語句の意味を理解する。

四 縦部①「呼吸をのみこんだ」とありますが、この部分の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

4 発言を我慢した。
3 ため息を抑えた。
2 息を吸い込んだ。
1 コップをつかんだ。



	正答率	無解答率
本校	33.5	0.0
全国	43.7	0.4

(考察)
文脈の中における語句の意味を理解する問題である。「この呼吸をのみこんだ」の「この」が何を指しているのかを確かめながら、文脈の言葉の意味を捉えることに課題があり、全国比 10.2 ポイント下回った。語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的に捉え、その語句が文章の中で果たしている役割を考えるように指導していく必要がある。

<数学>

成果や課題があった設問

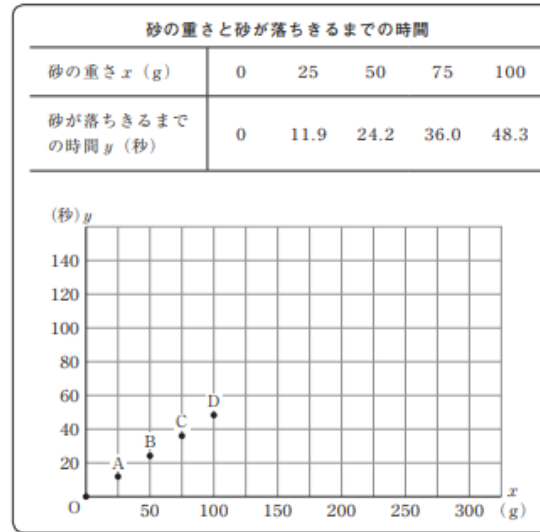
与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる【関数】

【成果】

7 学級委員の健斗さんは、2分間スピーチの時間をはかるための砂時計をペットボトルで作ることにしました。その砂時計は、ペットボトルに砂を入れ、砂を通すための穴をあけた厚紙をペットボトルの両にはさんで作ります。健斗さんは、ペットボトルに入れる砂の重さを決めると、砂が落ちきるまでの時間が決まると考えました。そこで、砂の重さが x g のときに、砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間を y 秒として調べ、その結果を、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



調べた結果



(1) 調べた結果のグラフにおいて、砂の重さが 75 g のときに、砂が落ちきるまでの時間が 36.0 秒であったことを表す点はどれですか。点 A から点 D までの中から記号を 1 つ書きなさい。

【課題】

与えられたデータから中央値を求めることができる

5 下の記録は、ある中学校の男子生徒 10 人が反復横とびを 20 秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録									
43	46	46	52	53	55	56	56	56	57

(単位：回)

反復横とびの記録の中央値を求めなさい。

	正答率	無解答率
本校	92.1	2.8
全国	93.5	2.0

(考察)
与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題である。全国比で 1.4 ポイント下回っているものの、9 割以上の生徒がグラフ上の点を適切に読み取ることができている。班活動の対話や教え合いの中で理解を深めてきた成果が出たと考えることができる。

	正答率	無解答率
本校	65.7	1.6
全国	84.5	1.0

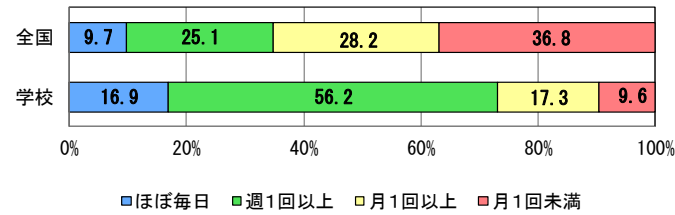
(考察)
与えられたデータから中央値を求める問題で、全国比 18.8 ポイント下回っている。1 学年の内容であるが、知識の定着が不十分であることが浮き彫りになった。授業中の「わかる」を、家庭学習によって「できる」へ移行できていない生徒が多いことが課題である。授業と連動した家庭学習の充実を図る必要がある。

質問紙に関する調査

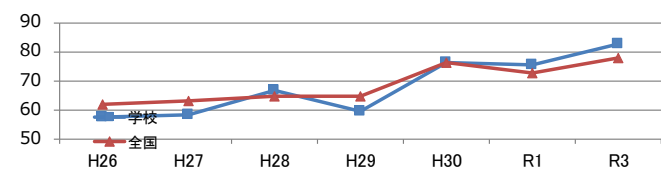
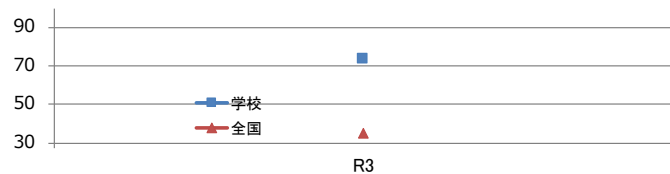
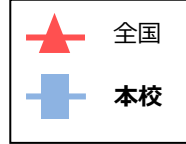
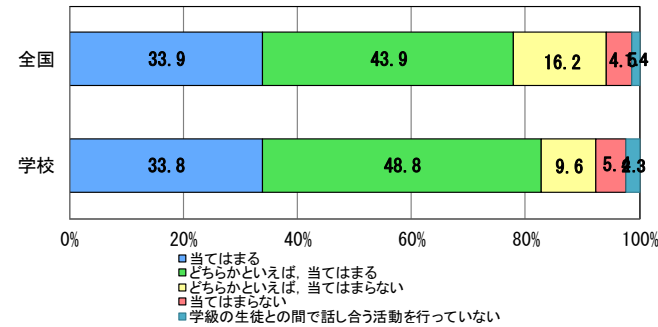
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

【成果のあった項目】

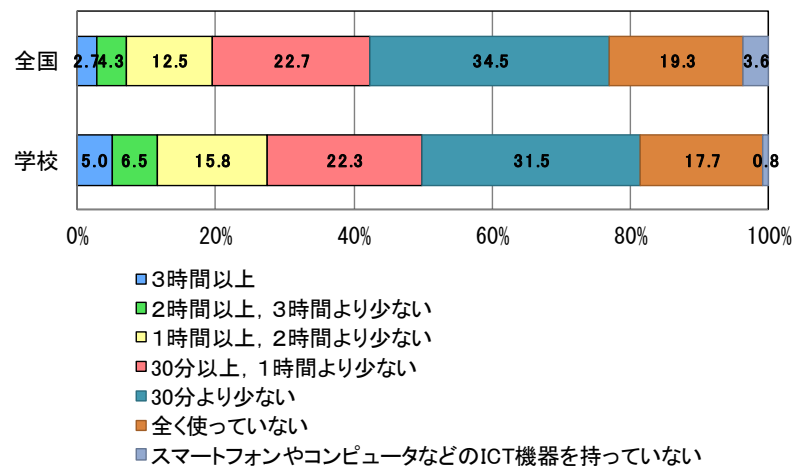
あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか



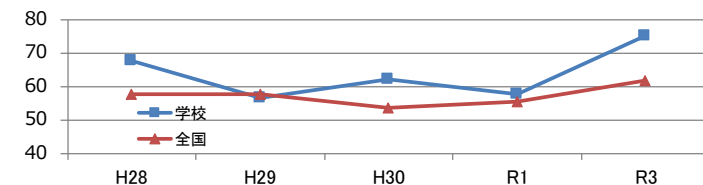
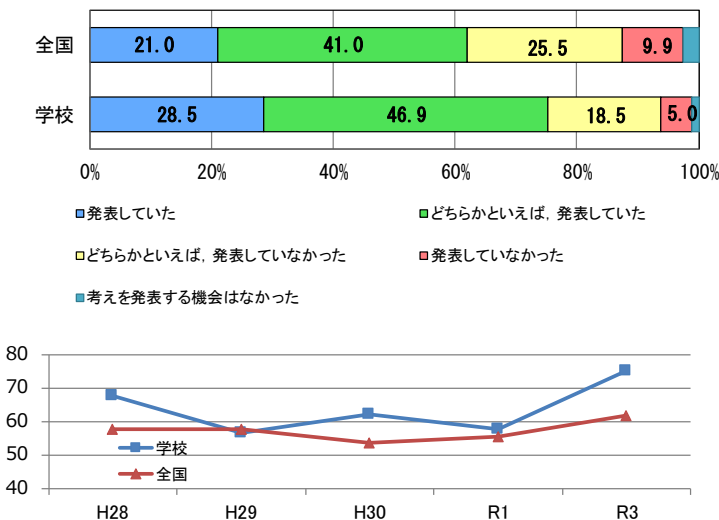
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。



授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しましたか。



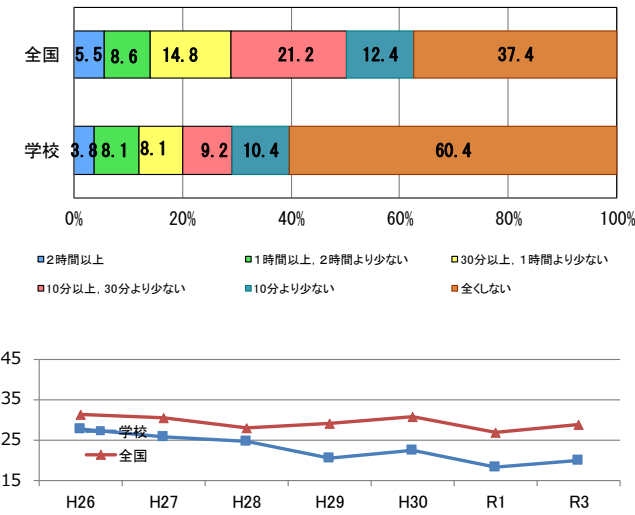
【考察】

タブレットが1人1台配布されたことにより、授業でICT機器を使用して他の生徒と意見を交換したり、調べたりする頻度は全国平均を大きく上回っている。またICT機器を勉強のために使う時間も全国平均を上回っており、ICT機器は学習には欠かせないツールになっていることがわかる。

また、授業においてグループワークや班学習など対話的な活動を行ってきたことで、生徒が自分の考えを伝えたり、深めることができるようになってきている。今後も対話的な学習が、自分・相手にとって意味のある活動であるという認識が深まるように取り組んでいく。

【課題が残った項目】

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか

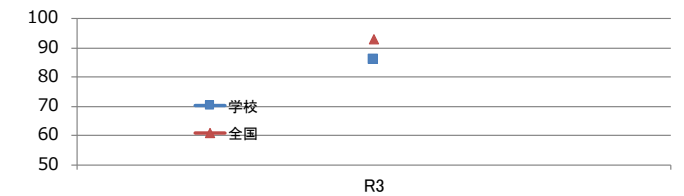
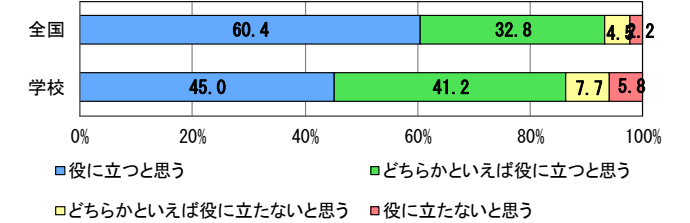


【考察】

平日の読書時間は依然低く、普段読書しない生徒が約6割と高くなっている。読書を通してものの見方や考え方を広げたり、読書を生活に役立てたり、読書によって自己を向上させたりしようとする態度を育む必要がある。

学習におけるICT機器の使用頻度は高いものの、勉強の役に立つと感じている生徒は全国比7ポイント低く、ICT機器の効果的な使用について、指導していく必要がある。

学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- 生徒が班で話し合って考えを深めたり、発表したりする活動を取り入れ、生徒の主体性や他者と協働して課題解決を図る力を育成に努めます。
- タブレットなどICT機器を効果的に活用し、生徒が自ら考え、行動する授業を展開していきます。
- 教員が授業研究や研修・相互授業参観などに積極的に取り組み、授業力の向上に努めます。
- 目的や条件に合わせた短い文章を書く場面を各教科で増やし、生徒の文章力を向上させます。そのために授業内での課題設定、振り返りの充実にも努めます。
- 教室では、生徒が間違えることを恐れず、安心して発言・質問できる学習環境をつくります。
- 部活動や学校行事、委員会活動など、生徒が自らの成長を実感できる機会を多く設け、成功体験から自己肯定感を高められるように努めます。
- 毎日の新聞コラムの取り組み、学校図書館と連携して読書の推進を行い、読解力の向上に努めます。
- 放課後学習会や自習室の開室によって、生徒の学習意欲・基礎学力の向上を図ります。

(2) 家庭学習について

- 計画的に家庭学習を進めることが一人一人の習慣になるように努めていきます。学校からの課題をこなすだけでなく、生徒の自学自習力が向上するよう生徒へ訴えかけていきます。
- タブレットドリルやドリルパークなどの家庭学習向けのコンテンツを使用した課題について、各教科で研究していきます。また、各教科・クラスでGoogleクラスルームを活用し、課題の確認や復習を行えるようにしています。
- 授業で習ったことをもとに、文章を読み、考えを深め、自分の言葉で書くことを求める課題を検討していきます。